

## 年賀状に想う

十二月に入ると喪中のお知らせのハガキが何枚も送られてきます。

高校生の時にお父さんを亡くした友達から何十年もお母さんと二人の連名で送られてくる年賀状。

年始の挨拶が印刷され、苗字も住所も変わることがなかった彼女からは「元氣？今年こそ会いたいね」と手書きで書かれている。お互いに合言葉のように会いたいねとだけ書いて何十年も会えずにいる。

そんな彼女から喪中のハガキが届いた。愛するお母さんを亡くし、これからは一人の名前になるのだと思ったら淋しくなり、母を亡くした時と思いが重なり涙が溢れた。すでに両親が他界している私は、親の年を数えなくなり何年になるのだろうか。彼女のお母さんの年齢を見て、生きていればそんな年になるんだと気付きました。

お互いに会わなくても年賀状を止めることはなく安否確認をしているのです。

年賀状と共に楽しかった思い出が蘇るから、会えない人にこそ年始のご挨拶はこれから年賀状から始めたいと思います。

心穏やかな年をお迎えください。

(柴田 由紀子)

テーマ：いのちをみつめて—死を語ろうⅢ—

講師：伊藤三学 浄土宗西山深草派松樹寺住職

浅井太郎 岡崎カトリック教会司祭

日時：11月16日（土）10:00～12:00 岡崎福祉会館 301号室

## 勉強会

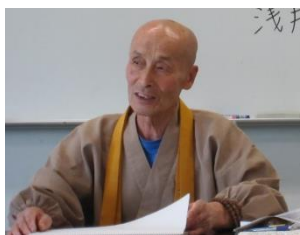
### I部『3つの約束』

- ①ここでの話は外では話さない。
- ②指導や否定するようなことは言わない。
- ③最後まで聞く。

3つの約束を確認してからグループに分かれ「死」をテーマに分ち合いをしました。

### II部 講師による講演

伊藤三学住職



イスラム教のスリランカ人との出会いのお話から始まりました。現在の戦争は宗教が原因にもなっていることから、宗教を認め合うことが大切であること。例えば、手を合わす祈りの形、数珠とロザリオ、嘘をつかないという教え等似ている点があるので、それらを学び合い認め合うことが大事であること。

南無阿弥陀仏という祈りがあるが、南無は尊敬するという意味、阿弥陀は人智を超えたという意味があるとのこと。ガンジス河の砂のほど無数に仏様がみえるということなどをお話してくださいました。

この世は災害がいつ来るかわからず避けることができない、あつてはならないようなことが起こり得る世の中であること、何かをすることで不安が少なくなるとい、災害のあった東北に7回も行かれた。娘さんはカトリック系の幼稚園に通われ、ご本人は、毎日、ホームレスの人たちへの炊き出しを10年以上されているとのこと。



浅井司祭が今までに経験された信者さんの最期をお話くださいました。ルルドの水で奇跡を願うことより、洗礼をうけることを喜びと思われた信者さんのお話でした。

浅井司祭は南山大学で宗教学を教えてみえるとのことで、その中で、癌専門看護師の田村恵子さんの話を引用して講義されてみえるとのこと。田村さんは、「癌患者さんの体だけでなく心のケアをしている。心の痛みを癒す。人は、希望を持っているがそれに気づいていないだけ。もうダメと言う方にあいづちを打ちながら寄り添い、受け止めると、もう一度前向きに生きてみようとの心の転換が起きる。誰もが死を受け入れ向き合ったとき、力が出てくる。真実と向き合う時に力が湧いてくる。なぜ、前向きに生きる力があるのか、それは大切なものは何か・残るものは何かを考えるから。そして、自分が周りに支えられていることに気づく時に前向きの想いが湧いてくる。絆を支えることが大事。患者さんの生き切ったことへの涙を流す。人は、死と向き合わなければならない。」と話されていた。看護師の田村さんは、宗教家でもあると思うと話されました。

人は、だれも亡くなったら、無宗教ではいられない。

イエス様は自ら十字架にかかり死を受け入れられた。そして、イエス様を通し希望がある。

司祭は葬儀で家族と超越した者との間に立ち、キリストの立場で生きた人生を祝福する。(永谷美雪)

### 【感想】

- ・はじめての参加です。人の死について素直に思い、考えをのべさせていただきました。他の人のお話を伺って、本当にいろいろの経験をしておられることに驚きにも似た感じをもちました。私も母の“みとり”をお話させていただきました。今度は自分たちの順と心得て、行動をせねばとあらためて認識しました。神父様のおはなしで、「人は死がある→それを受け入れて死を生きぬく」に感銘を受けました。夫婦の課題として過ごしたいと思いました。
- ・自分の枠で、他人の幸せを見ていたのに気づかされました。どんな苦しい状況の中にも、大切な方たちとの時間を大切に“今”に感謝して生きる。それはとても幸せなことだと感じました。『寄りそうことで、心の転換がおき希望が生まれる』ずっと大切に覚えておきたい言葉です。
- ・死んだらどこに行くのか。魂はあるのか。天国・地獄はあるのか。転生輪廻はあるのか。どうしたら魂は救われるのか。それぞれの宗教の違いを知りたいと思っていました。それがわかると死ぬことの不安が楽になるような気がします。今日は、とても大切な言葉を教えて頂き、参加してとてもよかったと感じています。ありがとうございました。



- ・どう死に向かうか どんな状況でも希望がある。見捨てられていない。自分の前にいる人に支えられている。そんな絆に気づく時、それが前向きに生きる力となる。「死を受け入れ今を生きる」  
これからも いのちをみつめて いきたい。

そう思う時になりました。講師の方々ありがとうございました。またお話を伺いたいと思っています

・みんなそれぞれ苦しみを背負って生きていることが分かりました。前を向いて生きていかなければと思いました。

・私は、死ぬことが、怖いです。今の生活に未練もあります。そして、自分が死んだ後、どうなるのか不安でもあります。今回の勉強会は、私の不安を少し楽にしてくれました。



・日常生活で「死について語る」相手や状況には恵まれていません。しかしこうして出席したすべての人が同じ目的で来ていること、グループは違っていても同じ時に同じ部屋で死を語っていることに感動しました。具体的な話を聴いてくださり共有できたことは嬉しかったです。

・日に日に体力も気力も衰えていくのを感じている毎日です。最近先亡くなった多くの人を懐かしく思いその人たちが体験した死のむこうに何があるのか・・・と思いつく時が多くなりました。一度しかない人生を、見たこともない世界を信じ希望し、そこを生きて、語ってくださる宗教家の存在は大きな希望だと思いました。



## “手縫い”の報告

愛知病院・市民病院・国際病院・施設へ依頼された品を作り届ける。

第2月曜日(1.2月休3・4月あり) 10:00~12:00 場所カトリック岡崎教会

今年度の市民病院には、6人の方にミシン縫いをお願いし、アイスノンカバー、モニター袋、その他のカバー等、全部で82枚を納めさせていただきました。

愛知病院への雑巾作りは終わりましたが、愛恵協会と福祉の村・そだちの家から要望がありましたのでそちらに送らせて頂くことにしました。(勝川俊子)



—手縫いと私— 小久保かつ

手縫いの会は、志のある者が集まり雑巾を縫うことから始まりました。その集まりをり経て凡そ23年のお付き合いになります。

岡崎ホスピスケアを考える会が発足してからは、病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー、患者さんとその家族、パソコンのできる方、緩和ケア病棟でボランティアの奉仕者など多くの方々と私は、和気あいあいの仲間として過ごしてきました。癌という病についての知識、岡崎市の議員や開業医師・行政までを巻き込んで勉強した日々、またそれをどう具現化していったかを「私のたまため箱」として意思表示、遺言、病歴などをまとめ、自分のものとしてきました。思い出深い私と会の繋がりです。多くの活動から手を引いた私は、布を切って清拭布をつくることなら・・・と思い切って手縫いの会の活動を始めました。

手縫いの会は、具体的には相手さまの要望にあったものを手づくりしたり、雑巾や清拭布を用意しています。出来ることを出来るだけ協力したいと思っています。(小久保かつ)





## 緩和ケア病棟ボランティアの報告

10月12日（土）の家族会は台風の影響で中止となりました。後日開催の日程は未定です。

家族会ではティーサービス時の感謝とお礼の言葉を頂くことがあります。週一回ですが患者さん、ご家族の大切な時間寄り添わせて頂ける時です。ゆったりとした雰囲気の中で過ごしていただけるよう、私たちはどんな時でも焦らず、慌てず、静かに、患者さん、ご家族との時間を過ごしていきたいと思います。（神尾弘美）

アロママッサージを終えた時、手を差し伸べてくださる方がいました。“エッ？あくしゅ？”慌ててゴム手袋を外し、汗でベタベタになった手を拭き「ごめんなさいね濡れてて」手を重ねたら「またお願いしますね、命があれば。」と微笑まれた。その目に、全てを包み込むような荘厳さを感じたのはなぜだろう。私も、日頃会う家族、友人、ご近所さんと「また逢いましょうね、命があれば」と思えるひとときを過ごしたい……。ここでは教えていただくことばかりです。（橋詰清子）

## “つどい”の報告

患者・家族・遺族（誰もが遺族）の集まり

第3木曜日 10:00~12:00 福祉会館（部屋は活動計画日程をご覧ください）

年末になると、気ぜわしい、今年中に片付けたい物や事が押し迫る。何とか片付け、それなりに年の瀬を越えて新年を迎える。新年という響きは新しい生活が始まる清々しさを感じるのは私だけでしょうか。人の気持ちの整理も、年越しのようになるといいなと思います。ショックな事、悔しいこと、悲しい事、途方に暮れる事、「何か」を境に整理することができれば、気持ちの入れ変わりができるのかなと思いました。

「つどい」がそんな「何か」の一つになれるように。（縄田昌子）

◆ご寄付ありがとうございました。



良友会のみなさま（岡崎市民病院で、手縫いのバンダナ作成のチラシをご覧になったそうです）

◆嬉しいお知らせ



11月22日、厚生大臣より令和元年度ボランティア功労者として、岡崎ホスピスケアを考える会が選ばれ東京で表彰されました。表彰状は次回の通信に載せます。（柴田由紀子）

## あとがき

100人いれば100通りの価値観、100人いれば100通りの生き方の選択がある。私自身どんな生き方を選択してきたのだろう。そしてこれから、どんな選択をして生きていくのだろうか？

今、私は「私たちは、あの世に旅立つまでだれもが『道を選ぶ権利』を頂いている」と感じながら、介護・福祉の仕事をしています。

寒くなってきました。どうぞご自愛され、よいお年をお迎えください。（永谷美雪）